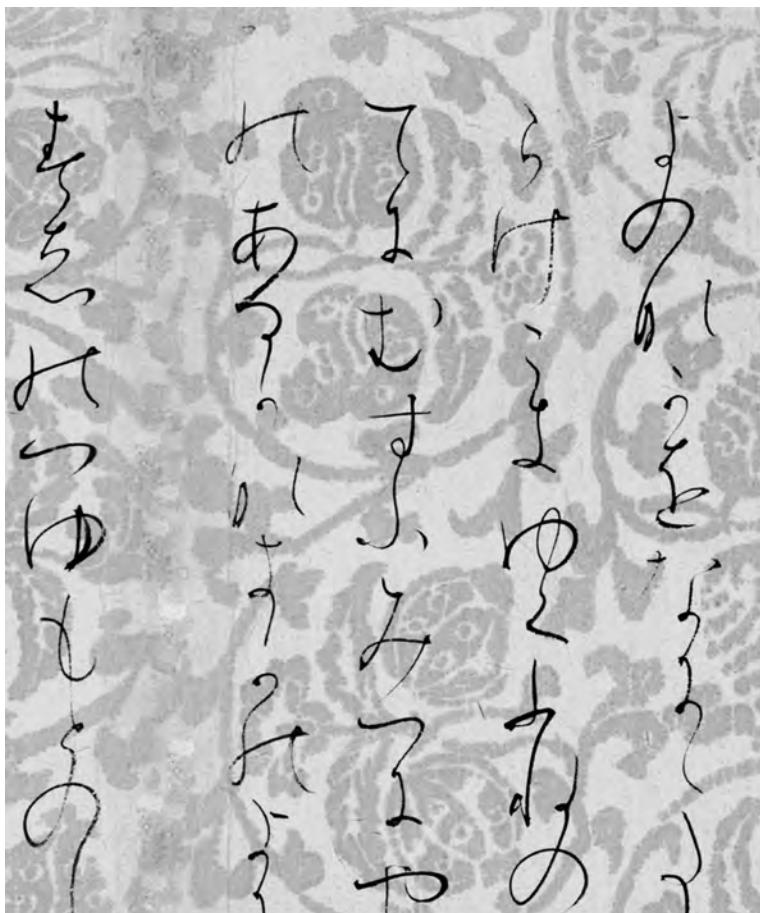


# 書道藝術



662'16.6

公益財団法人 書道藝術院

私たち「日本の書道文化」の  
ユネスコ無形文化遺産登録を  
応援しています。



昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可  
平成二十八年五月二十五日  
平成二十八年六月一日  
発行 刷行

(毎月一回一日発行)

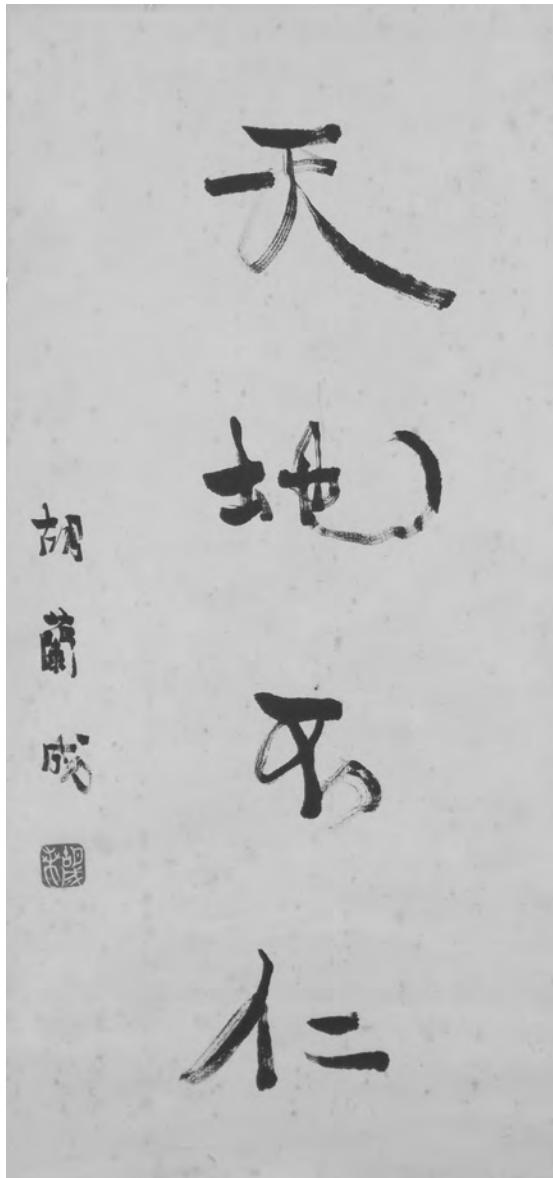
書道藝術

第六六二号

主圖版① 「天地」



図版② 「天地不仁」四字



図版③ 箱書き



## 「落ち穂拾い記」

### ② 胡蘭成の一行書 「天地不仁」

現代

胡蘭成の書を知ったのは、いつ頃であろうか。名古屋の友人に面白い画廊がありましたが、寄りませんかと誘われて、初めて目にしたのが胡蘭成の「寂」の一作品であった。稍行書風でゆったりと伸びやかな線質が大変魅力的であり、求めた。これを機に、胡蘭成

(1906～1981)なる人物を知った。相当以

前に書道博物館の芳名録にこの人物の名前を見たことが記憶にある。戦後の人・岡潔、湯川秀樹、川端康成等と親交あった思想家であり書を善くした人物であり、日本で書の個展や作品集を出していた。民国期から戦後への中国の政治的激動期を生きて、戦後来日し東京の福生で没している。川端康成も書よくしたが、その交流のなかで、胡蘭成の書を激賞している。図版に掲げたのは、「天地不仁」の一行書である(図版②)。四字ともやや左に傾きながらも不思議なバランスを保っている。一字目の「天」の終筆を大きく右下に押し出しそれを受けるように「地」の字の終筆を大きく跳ね上げている。

このような筆勢の変化、抑揚、文字の構成は、日本人の書では余り目にしない。書全体から強靭の雰囲気を感じさせる。「胡蘭成先生真蹟」の行草の箱書きは、胡蘭成と親交のあった宮田武義(游記山人)の書である(図版③)。

この欄に関するご批評、ご意見、ご希望、ご質問などをお聞かせください。

# 書道芸術院 平成の群像 (2016)



一  
鳳

新井京華



惠与

今春傘寿になり、今まで人生を余り振り返る機もせず進んでまいりました。今回執筆するにあたり、20代後半から『書の教室』『書道芸術』誌、書道芸術院展、全国学生書道展のお手伝いに四谷の事務所・東京都美術館へ上京した事や、香川峰雲先生・中島邑水先生・種谷扇舟先生に懇切丁寧なご指導いただいた事を思い出しました。「篆刻字も学ぶと良いよ」「書は線だ」「現代

高校の師山本聿水先生に入門し毎週古典臨書作品を持参。何枚か添削していただきその後はただ無言で墨をする。時に師が他の人の指導中に私に「筆順が違う」と指摘された。ある時2・3名が呼ばれ、書道芸術院展への出品を促されて前衛書へ一步踏み出しました。そして今日まで高崎市民展、群馬県展・毎日展へと休まず出品し続け、「前衛書」が大好きになりました。先師が前衛は「難しいネ」と学生展の審査中に話された言葉が、作品制作する時に聞こえる。

的、絵画的にユーモアがお出せるか原稿作りを心掛けています。そして、墨・紙・水に拘り「古墨」「古紙」「硬水」に拘りつづけます。展覧会ごとに紙の寸法が違う現在、縦長・方形・横長・小品と多様ですが、リズミカルに、あまり力まず表現しています。現在、地元高崎市は多胡碑・山上碑・金井沢碑の「上野三碑」を世界記憶遺産登録する運動に力を入れています。高校時代の部活動や会の行事として、三碑巡りをし拓本を採取したりしたことを思い出すと良い時であり、良い環境に恵まれていたと思します。これからも与えられた位置や環境の中で、美しい書・楽しい書を表現できるよう心懸けてまいります。

# 書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

## 公益財団法人書道芸術院理事会

5月14日

(土) 午後2時より書道芸術院事務所にて定例理事会が開催され

た。理事会に先立ち午前10時から監事による監査が常務理事、青木会計事務所担当者が出席して行われた。

事業監査、会計監査とも特に問題なく承認され理事会へ回された。

理事会では左記の事案が審議可決された。

・平成27年度事業報告の承認

・同 会計決算の承認、監査報告

・定期評議員会の招集

・報告事項

第70回記念役員作品巡回展会場

(平成29年3月より11月にかけて全国13会場を巡回する。ほぼ会期、会場が決まり、海外展のウイーン展会場も2017年10月中旬から下旬にかけてウイーン市内、ヘルナ市民大学および日本大使館広報文化センターなどが有力候補会場として提案されており、来月にも決定することになっている。)

その他 第68回毎日書道展出品概況報告。(全体では前回展より30数点出品増となつた。本院公募会友出品は前年比若干の減少となり1952点)

日本の書道ユネスコ無形文化遺産登

録推進運動団体署名協力のお願いなど。  
任期満了に伴う理事・監事改選を迎  
え、今回定年規定により4名の理事が  
退任されることになり大野祥雲、飯高  
和子、小伏小扇、牧泰濤の各理事より  
ご挨拶を頂いた。詳細は後程院報にて。

## 「書道芸術学生版」監修

本院では数年前から「書道芸術学生版」の編集内容、参考手本などを中心に毎年前文部科学省初等中等教育局教

育課程教科調査官の長野竹軒先生に監修をご担当いただきており、昨年1年間に発行した学生版について5月2日

本院事務所にてご意見を伺った。学生版で学ぶ児童生徒にとり学校で学習す

る内容と、競書雑誌などを基に書塾の先生から指導を受ける内容に違いがあ

りると混乱する恐れがあるため、文部

科学省学習指導要領に準拠することを狙いとしている。今月号から学生版表

紙にサブタイトルとして明記する。

雑誌の個性、書道芸術院の持ち味を

すべて消してしまうということではなく、両者の良さをバランスよく取り入れていくことが必要であろう。今回の監修でも毛筆・硬筆両面にわたり幅広

いご意見を頂いた。

毛筆では全体として年々教材手本の質は向上している。しかし一部に点画構成などバランスを欠くもの、編集部からの指摘に応えていない面がみられ

ない内容であるとの評価をいただいた。  
今後とも良質な競書雑誌の発行に努  
力して参りたい。ご意見など遠慮なく  
編集部にお寄せいただきたい。

## 全日本書道連盟第161回理事会

参与会員に大野祥雲・浜谷芳仙の両氏、  
評議員に石田春憲、小林琴水、浜田堂光  
各氏が推薦される。

第161回定例理事会が5月12日、上野精養軒にて開催され左記の議事が審議された。

・書写書道教育推進協議会状況報告  
次の改定に向けて要請活動を精力的  
に展開中。(来年3月小学校改定、実  
施は3年後)

・日本書道ユネスコ登録推進協議会状  
況報告。現在全国にて団体署名を請  
基金協力依頼など進行中。2020年登録を  
目指す。

・平成27年度助け合い募金報告。397  
394万円の協力を頂き、日赤へ300万円、  
中国大使館へ100万円を寄託した。これ  
までの総額は1億400万余円となつた。

・平成27年度事業報告、会計決算報告。  
ほぼ予定通り。

・平成28年度書写書道教育講演会  
6月6日連盟総会(12:30~13:20  
上野精養軒)のうち文部科学省初等中  
等教育局教育課程教科調査官 加藤泰  
弘氏による講演が行われる。(参加自由)

・平成28年度書道夏期大学講座  
会場 池袋サンシャインシティ  
日時 8月5日~7日

・平成28年度書道夏期大学講座  
会場 池袋サンシャインシティ  
日時 8月5日~7日

本院関係者であればどなたでも使用  
可能。但し事務局にご一報を。

楷書 山口啓山 篆隸書 井上清雅  
草書 石原太流 かな 岡田直樹  
漢字かな交じり 室井玄聰  
行書 山内香鶴の各先生。

申込 連盟事務所まで  
・参与、評議員推挙 今回連盟全体の  
組織を考慮して推挙を行つた。

参与会員4名、評議員62名が推挙さ  
れ本院からは冒頭の5名が推挙された。  
・高野山開創1200年記念書写作品展示  
会期 11月8日~13日  
会場 大阪市堂島バーフォーラム  
展示作品 推薦作家714点(前後期)  
開会式 11月8日(火) 14:00  
作品集 本年9月発行予定  
・その他 助成事業1件(全書研)

日本書道文化ユネスコ無形文化  
遺産登録推進運動ロゴマーク  
本院ではユネスコ無形文化遺産への  
「日本の書道文化 書き初めを特筆し  
て」登録推進に全面的に協力している。  
本院発行の競書雑誌「書道芸術」「書  
道芸術学生版」ともに本登録運動のシ  
ンボルといえるロゴマークを雑誌表紙  
に今後掲載し、運動の広がりに貢献し  
ていく。展覧会の要項はじめボスター  
などにも掲載する予定。会員諸氏の関  
係する催しなどにもポスター掲示やロ  
ゴマークの活用などご協力いただきた  
い。

本院ではユネスコ無形文化遺産への  
「日本の書道文化 書き初めを特筆し  
て」登録推進に全面的に協力している。  
本院発行の競書雑誌「書道芸術」「書  
道芸術学生版」ともに本登録運動のシ  
ンボルといえるロゴマークを雑誌表紙  
に今後掲載し、運動の広がりに貢献し  
ていく。展覧会の要項はじめボスター  
などにも掲載する予定。会員諸氏の関  
係する催しなどにもポスター掲示やロ  
ゴマークの活用などご協力いただきた  
い。

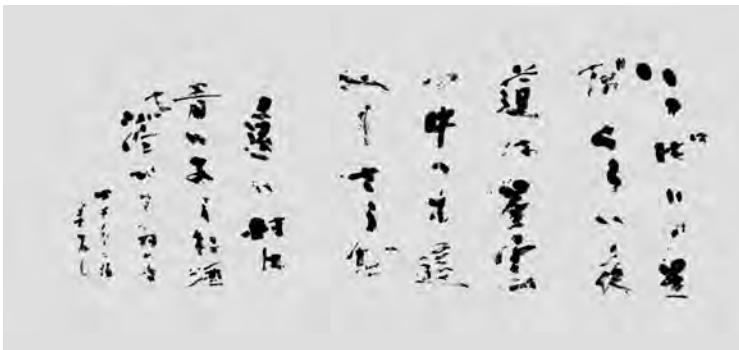
現代詩文書

烟中弄石

漢字(三)

稻垣小莊

## 余白について



### 田中冬二詩「青い夜道」

烟中弄石書

意志的な素材を書に表現するには線の強弱さだけでも作品を仕上げることが出来ますが、私達が素材として用いる俳句・短歌・詩など多くは叙情詩と言われるものであり、それゆえ作品に

するには叙情性豊かな表現が求められます。

絶情性を高める表現のひとつは何といっても余白を生かすことが不可欠です。

大胆な余白を取り入れた作品には“現代感覚”を感じさせられます。

豊かな詩人田中冬二の詩「責  
い夜道」を作品に仕上げまし  
た。

しみじみとした情感を高める手法として文字の周りにいつも以上に余白を取り、字粒を小さめながら大小の工夫を凝らしリズム感を狙いました。

また、潤渴、特に渴筆を多用して静寂感を表現しました。そして行間を開けて終わり3行の周りの余白で印象的表現を狙いました。

素材によって表現を変える  
のは勿論大切なことです。

21世紀の書

## — 私 の 主 張 —



A



10



C

●印象としての表現  
「印象」という言葉は19世紀後半、のちに「印象派」と呼ばれるグループが開いた第1回展覧会においてモネの出品作、その名もズバリ△印象、日の出▽を揶揄した批評家ルイ・ルノワの言葉「印象しかない」が印象派の名前の由来となっているのはよく知られるところである。書史の流れの中から見た時、印象を文字化した最初は象形文字であろう。目にしたものをお伝えするのに文字が作られた。それは単に見える物を伝える手段として記号としての文字である。(作品A)しかし書作の立場からその印象を作品にする時、單に見た対象を写すのではなく、そこには独自の美的創造性が必要不可欠であり、書き手の感性やら技量も要求される。つまり視覚から入ってきた世界から自分が受けた美を、感動をどう表現し作品化するかである。(作品B)

会に書くとして、具体的に印象表現したもので説明したいと思う。作品A・雨の形。初期の甲骨文には、上に一を加えず、雲から雨が降る形を示す。古文は「」の下に多くの雨滴をつける。「」は空を覆う形である。作品B・一滴の雨も降らない激しい乾燥が永く続いた後、数年分の総雨量が短い雨間に一気に降るという大陸の激しい雨の降る様子を表現した。墨は激しさ、強さ、広大さを表す為に濃墨に宿墨を混ぜて表現した。作品C・雨時、田植が終わり畠苗の頃にしそと降る雨。明日香に未だ残る日本の原風景から受けた印象を表わし、墨は淡墨と宿墨を用い滲みを出し湿感のある季節の叙情的な雰囲気のある「雨」を表現した。

このようすにAは「雨文字」の成り立ちから、Bは大陸に降る雨を想像し作品にしたもの、Cは明日香の地で実際に目にし作品にしたもの。同じ「雨」でも所・時により目にする現象は異なる。また同じ雨の降る様子を見たとしても受けた印象が書き手の体内を通り表現された時、それぞれの印象表現は異なるのである。ここに同じ文字であっても無限の可能性をみることができるのではないかだろうか。

# 平成28年度 第52回書道芸術院単位認定講習会のご案内

書道芸術院単位認定講習会を開催いたしますので、お誘い合わせのうえ御参加ください。

なお、この御案内は審査会員候補並びに審査会員に送付しておりますが、無鑑査並びに一般の方にも御案内いただければ幸いです。

1. 目的 総合団体である本院の性格から、所属部門以外の部門についても幅広く学習し、資質の向上をはかることを目的とする。(審査会員となるためには、本講習会の受講が必須です)

2. 期日 平成28年8月20日(土) 9時30分 開会～8月21日(日) 15時 閉会

3. 会場 レンプラントホテル大分

〒870-0816 大分県大分市田室町9番20号 Tel 097-545-1040 Fax 097-545-1023

4. 主管 九州支局 代表 牧 泰壽

〒873-0412 大分県国東市武蔵町古市489-1 Tel 0978-68-1528

5. 内容 単位認定(8講座)

実技(漢字、かな、現代詩文、篆刻・刻字、前衛書、書写)

理論(書道芸術院史、原拓書道史)

6. 費用 講習料(運営費) 5,000円

8/20宿泊代(1泊懇親会朝食 昼食2日分税サ込、写真代) 20,000円

前泊宿泊代(8/19夕、朝食税サ込) 14,500円

後泊宿泊代(8/21夕、朝食税サ込) 14,500円

A. 講習会参加(8/20・21参加)	25,000円	C. 後泊(8/20・21・22参加)	39,500円
B. 前泊(8/19・20・21参加)	39,500円	D. 前後泊(8/19・20・21・22参加)	54,000円

※教材としてテキスト、篆刻・刻字用材料等は個人で購入していただきます。

※出店業者 西川皆文堂

※会費は申込をしてから決定者への通知に同封する振替用紙で納入ください。

7. 科目と講師(講習順序は受講者決定通知の時にお知らせします)

【漢字】竹本 龍汀 【かな】平川 峰子

【現代詩文書】尾形 澄神 【篆刻・刻字】後藤 大峰

【前衛書】三森 慧香 【原拓書道史】種谷 萬城

【院史】辻元 大雲 【書写】広瀬 舟雲

8. 申込方法

(1) 定員 150名(講師団・役員含む) 資格は問いませんが下記資格を優先します。

①審査会員候補 ②審査会員 ③無鑑査 ④一般

(2) 申込期限 平成28年6月10日(金)

(3) 同封の参加申込書に記入の上、下記事務局にFaxまたは郵送で申込をしてください。

(社中ごとにまとめていただいて構いません)

※申込締め切り後、受講決定者へ詳しい要項と会費振り込み用紙を送付いたします。

事務局 九州支局 事務局長 児玉 韶光

〒870-0943 大分県大分市片島15組

Tel・Fax 097-569-9653

こうほ  
皇甫誕碑  
(唐・歐陽詢) ③

〈解説〉皇甫誕碑には立碑年月の記載がない。しかし、この碑の歐陽詢の官名に銀青光祿大夫とあり、温彦博碑にも同じ官名がある。このことから温彦博碑とほぼ近年、すなわち貞觀11年（637）前後、歐陽詢の最晩年期の書と

思われる。筆力厳しく端整であり、明快な結体と用筆をもつ皇甫誕碑は歐陽詢の楷書の筆法を身につける上で、また初学者の筆力養成に最良の書のひとつである。

（編集部）

特別研究部臨書課題

II（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）当該古典の左記掲載部分以外も可。

（85%縮小）



※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨（押印のみも可）

(伝藤原行成)

③

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみ可)

よみ よのな 部 可  
かをな 尔 多  
に 少  
たとへむあさば  
らけこぎゆくふねのあとにしらなみ沙 漢書  
能

てにむすぶみづにやどれるつきかけ  
あるかなきかのよにこそありけれ  
能 可 那 支 可 能  
かのよにこそありけれ

すゑのつゆもとのしづくやよの  
なかのおくれさきだつためしなる  
能 可 那 支 可 能  
かのよにこそありけれ

観

僧

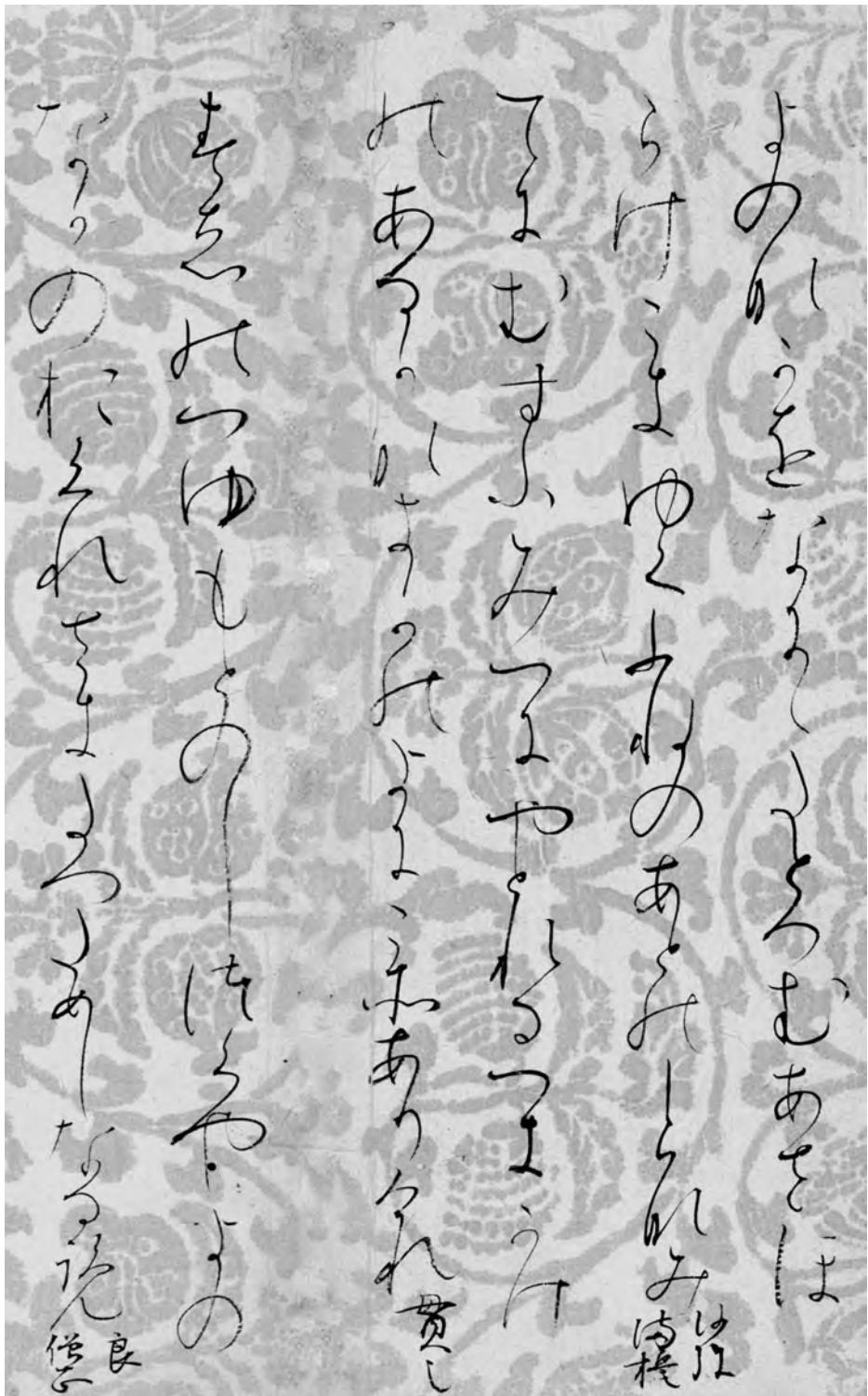
正

特別研究部臨書課題

II

(毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可。

かな研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)  
別紙を裁断して貼付も可。半纏紙は半紙サイズに切って使用のこと。  
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

(宮内庁蔵)

## &lt;解説&gt;

粘葉本和漢朗詠集と同筆と考えられている古筆に、「伝紀貫之筆「高野切」(第三種)、「伝藤原行成筆「近衛本和漢朗詠集」(同「伊予切第一種」)、「元暦校本万葉集卷第一」などがある。この中で「高野切」の書写年代が近年の研究で11世紀中頃の筆と推定されるため、この粘葉本和漢朗詠集も11世紀半ばの書写と推察される。

藤原公任 (966-1041) が

日本の代表的な詩歌集『和漢朗詠集』を編纂し、今日多くの書写本が現存するが、もっとも代表的なものがこの粘葉本和漢朗詠集である。藤原行成筆と伝える温雅な品格に満ちた書は、平安屈指の名筆である。(編集部)

※掲載図版は原寸。7

習い方解説 (三)

半田 藤 扇

時和筆暢  
(時和ぎ筆暢ぶ)

(汪基)

時は和平であって筆がのびのびと運ぶ。

今日は、草書で表現をし、書譜から筆意を学んでみました。白と黒が紙面を如何に美しく表現出来るか? 難しい問題です。

弱い線にならぬよう書いてみて下さい。粘りも大事です。それは、紙に食い込む線、さらりと書いているよりも圧がかかるっています。筆の太さや、種類によつても書きぶりが変わります。いろいろ試みて下さい。

今回の手本は羊毛の長峰筆を使用しました。



時和筆暢 よみ (時和ぎ筆暢ぶ)

書体=自由

習い方解説(三)

竹本龍汀

和光同塵  
(老子)  
(光を和らげ塵を同じくす)

優れた才能を隠して、俗世間に  
交わること。

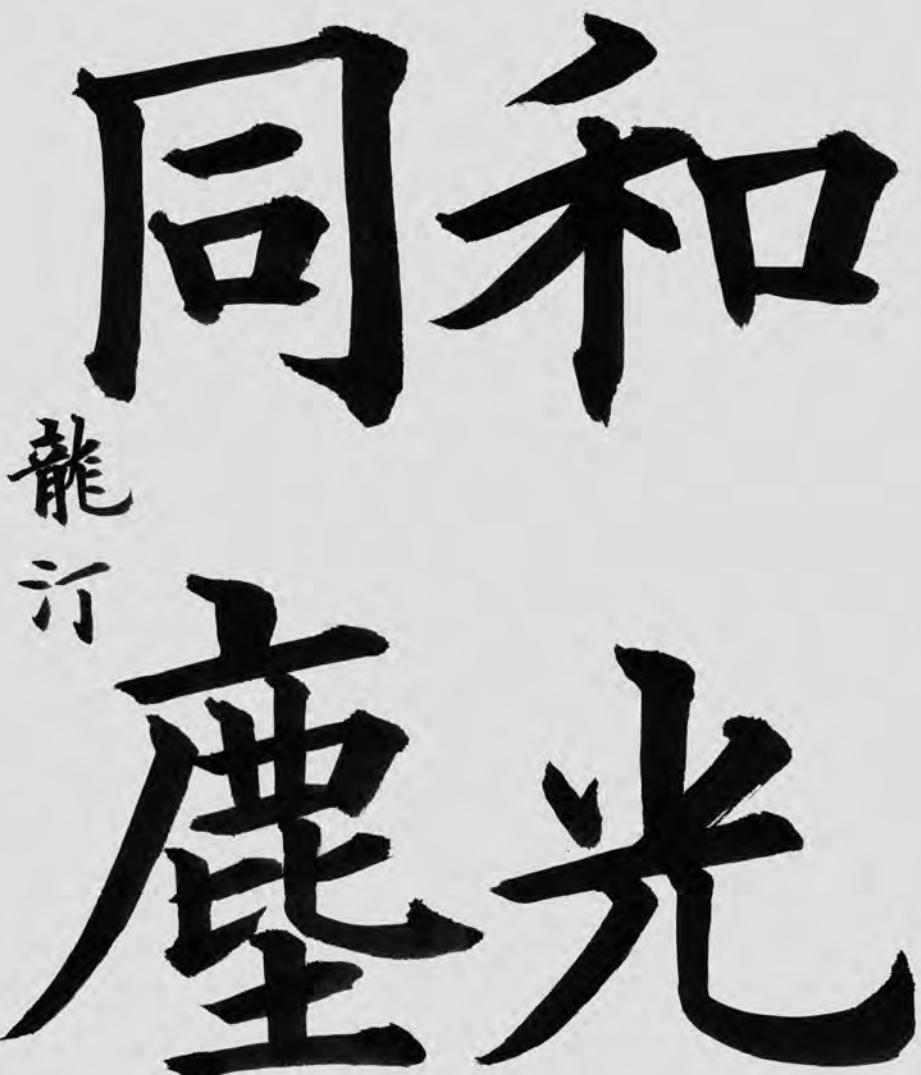
梅雨の時期は雨で鬱陶しい。外

は鬱陶しくても「内清外濁」とい  
うか、せめて気持ちは清々しくあ  
りたい。今月は「内清外濁」の類  
義語の「和光同塵」を課題に選ん  
だ。清くすっきりとしたイメージ  
から「歐陽詢」の用筆法で書いた。  
「和」「光」「同」「塵」は九成宮醴泉銘  
にあるので参考にされたい。

歐陽詢の代表作は九成宮醴泉銘、  
皇甫誕碑等がある。歐陽詢の用筆  
法を欧法というが、欧法は鋭い用  
筆と右肩上りの字形、背勢で峻険  
な味わいに特徴がある。九成宮醴  
泉銘は「楷書の極則」と言われ、  
正確に形臨すると精密でかなり難  
しい。端正な用筆と結構法、九成  
宮醴泉銘は楷書の基本、基礎を学  
ぶのに不可欠と思われる。

和光同塵 よみ(光を和らげ塵を同じくす)

書体=楷書



かな規定 初段以上【七月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

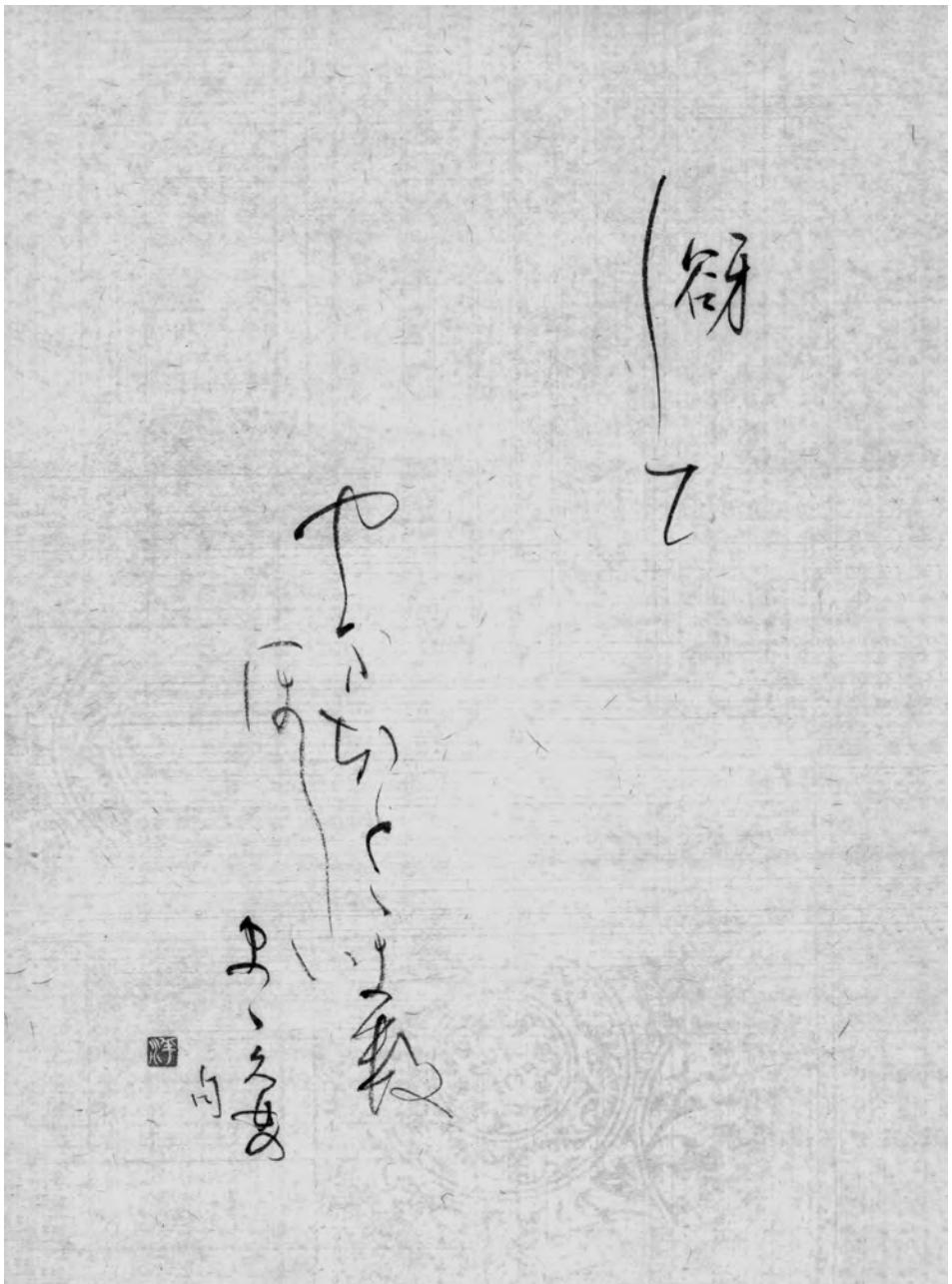
下谷洋子選書

### 習い方解説 (三)

下谷洋子

「一だま 游やまととさすほしま」  
(杉田久女)

久女



かなの線とはどういうものでし  
ょうか。競書などで、ただ細いだ  
けの単調な線の作品をよく見かけ  
ます。魅力がありませんね。「書  
芸の妙は筆力沈着にして飛動の意  
あり、氣象博大にして変化極まり  
なく…」比田井天来の言葉ですが、  
かなにも言い得ています。慣れな  
い変体がなの姿に気を取られがち  
でしょうが、かなも他の分野と同  
じで線質が大切、正に天来の筆力  
沈着、ここに集約されます。筆毛  
の弾力が生かされているかどうか、  
筆毛の動きに自分の呼吸が乗せら  
れているかどうか。形と流れを追  
うあまり、小さい筆を強く握り筆  
先だけで書いていませんか。執筆  
法と線は大変関係が深い。自分の  
作品をよく見て、つまらない線の  
要因を探しましょう。そして身に  
つけることです。

よみ方 游して山(やま)ほ(本)とと(へ)ぎ(支)す(数)ほしいまゝ 久女の句

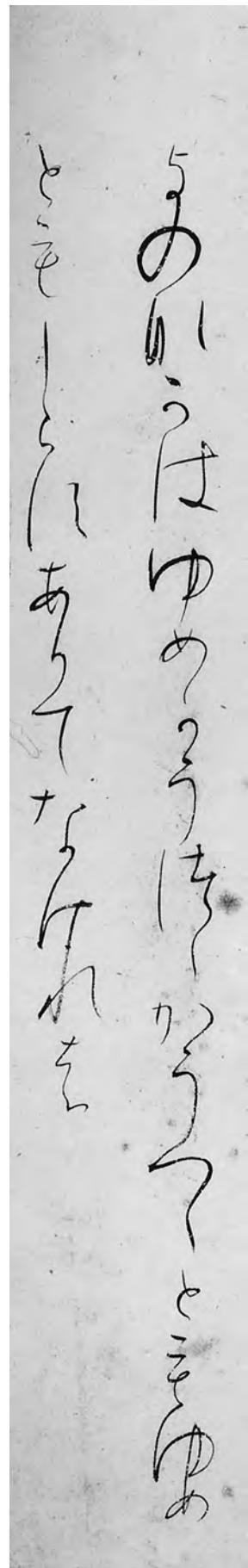
創作

かな規定 秀級以下【七月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真の和歌を全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切第三種  
(掲載写真縮小93%)

よみ方 よ(与)のな(那)か(可)はゆめか(可)う(徒)ゝかうつゝとも(毛)ゆめ  
とも(毛)しらず(須)ありてなければ(者)



### 習い方解説 (三)

木村東舟

かな条幅規定【七月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

木村東舟選書

梅雨の月さし入りがたく谷深し  
(水原秋櫻子)

半折に一句は、文字数が少ない  
ので、伸び伸びと大胆に書いて見  
ましよう。書き出しは墨量を控え、  
中程で墨継ぎをし、少し太めにボ  
リュームを出し、終りは徐々に沈  
めるように心掛けました。一行に  
いろいろと構成の変化を試みて下  
さい。

よみ方 梅雨の月さ(佐)し入り(利)がた(多)く(久)谷(堂)深(不可)し(志)

創作

\*たて形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 [七月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

書体 飯田春香選書

### 習い方解説 (三)

飯田春香

書体 飯田春香選書

晴れた初夏の暖かい風が麦の香  
を運んで来る。木陰に生い茂る草  
は春の花にも勝る風情である。

前回より少し墨量を多くし、テ  
ンポ良くリズムに乗って一気に書  
いてみました。始めに「日」が3  
字続いているので単調にならない  
ように緩急をつけてバランス良く  
書きましょう。

書体=自由

\*たて形式に限る



晴日暖風生麥氣 緑陰幽草勝花時  
(晴日 暖風 麥氣を生じ 緑陰  
幽草 花時に勝れり)  
(王安石「初夏即事」)

漢字条幅規定 秀級以下 [七月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

書体=自由

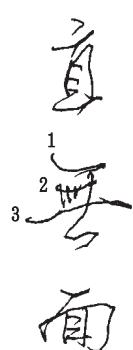
### 習い方解説 (三)

尾形澄神選書



心がまっすぐで裏・表がない意。  
昨年7～9月の漢字研究部・枯樹  
賦の繊細な表現を参考にしました。  
叙情性を追いながらも骨力を失わ  
ないようにしたい。筆は一面だけ  
でなく、全面を紙に当てる気持ち  
で運筆することが大事です。

書体=自由



直心無背面  
(直心にして背面なし)  
(寒山)

習い方解説(三)

広瀬舟雲

夏は夜。月のころはやう  
なう。やみもなほ。螢の光  
く飛びぢちかひたる、またたゞ  
一つ二つなど、ほのかにうら  
えりて行も、をかく。

枕草子 舟雲かく

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

平安時代に活躍した清少納言の『枕草子』は、とても有名な古典文学です。現在では、中学三年生『国語』教科書の教材として掲載されています。冒頭の「春はあけぼの…」は特に有名ですが、今回は季節的に「夏」の一節を題材としました。「夏は何といっても夜がいい。月が出た頃は言うまでもない。闇の頃でもやはり良い。螢がたくさん飛び交わっているのがよく、たつた一匹、二匹の螢などが、ほのかに光つて行くのも趣がある。」上掲の作品に付した句読点は、この中学校教科書によるものですが諸本によつて異なります。当時は句読点を付ける習慣は無かつたので全部省いてもかまいません。「上達のコツ」3 ペンの悪い持ち方を直そうとしても姿勢と視力も同時に直そうとしないと直に元に戻ることが私たちの共同研究で判りました。

※落款を必ず入れること  
(自分の名前を入れること)

今月の

# ホープ作品

## 各部総評

No. 660



漢字部 師範 木暮 千晶

超濃墨を用い渴筆を生かした明るい木簡調。芸術院の書の原点を見る思い。落款印は過大か。

◎漢字部総評 上級は手本解説にあつたようにさまざまな書体への挑戦が見られた。秀級以下解説中の古典を確認したい。(翠風評)



現代詩文書部 特選 北村 恵舟

小さなことに感わされることなく堂々と紙面を圧し、その上叙情性も秘めて魅力的な作となる。

◎現代詩文書部総評 思いをこめた作には敬意を表しますが、気持ちが空回りした作も散見。(石雲評)



かな条幅部 師範 松田ち代子

濃墨のねばりを活かし、リズムよく展開する。潤滑大小の変化もバランスよく実力の作。

◎漢字条幅部総評 上級2行書は普段からの基礎的な学書が生きる。



かな条幅部 師範 松田ち代子

抜けなく淀みない流れが美しい。表現で線の練度も好感。時にはチャレンジ精神も大切に。

◎前衛書部総評 全体には多様なズム作。線が沈めば更により。表現で線の練度も好感。時にはチャレンジ精神も大切に。

(京子評)



かな部 師範 濱田 竹雪

澄明な線の音色が聞こえて来るようです。大小・太細・墨色と申し分なく、この上はより独自性を。

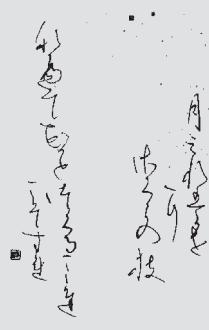
◎かな部総評 佳作が多く選別に困る程でした。下位の方は、過剰に細い・小さい・下部が空きすぎ等、一考下さい。(洋子評)

漢字・かな美しく調和し、布置見事です。流麗な筆致で氣脈が一貫し、格調高い作にまとめた。おおらかで明るい作品が多かった。用紙はハガキの大きさ(15×10cm)に統一して下さい。(紅瑠評)

ペン字部 師範 岩上 郁子

書体書風の変化ある作多く好感。普段からの基礎的な学書が生きる。下級1行書も同様。

◎漢字条幅部総評 上級2行書は普段からの基礎的な学書が生きる。



かな部再認識を望む。(明子評)

おられる人も久からず  
たゞ春の夜の夢の…  
と一だけゝ者もついには滅びぬじくに風の  
前の塵に同じ (家物語)  
よるゆく

今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)

前衛書

(白珠)

石澤徳子  
「勝」

◆超濃墨作品で潤渴の変化のある構成で紙面を圧倒している。空間処理は見事だが、落款位置一考を。

(大雲評)

(東舟評)



120×90cm

「囁き」

漢字 (もくせい) 今

西川藤象 「夜泊淮陰」

現代詩文書

(大雲) 小川白舟



55×174cm

◆青淡墨の情感を生かし、柔らかで厚味のある線で豊かな表現作。行間の余白に明るさを感じる。  
(大雲評)

(龍雲評)

小川白舟書

◆氣宇大きく抒情的で横への展開をねらった温かな作。囁に墨が入ったら違った。3行目のきにが読みにくい。  
(仙草評)

(東舟評)

◆墨色の美しい淡墨表現で、温みのある作品です。紙面を飛び出さんばかりの雄大さが、訴えかける様です。  
(仙草評)

(龍雲評)

(東舟評)

◆俊抜で緩急自在の線質でリズムに乗って楽しそうに書いている姿が目に浮ぶ。構成も上手く余白美有。  
(龍雲評)

(仙草評)

◆長鋒やや硬目の筆をリズミカルに運筆し、明るく切れ味よい作。滑らかな筆致は無理がなく自然。  
(大雲評)

(東舟評)



180×60cm

石澤徳子書

◆エネルギーな筆致と運筆で観者を魅きつける。左辺や軽くなつたが、呼吸の大きさを買う。

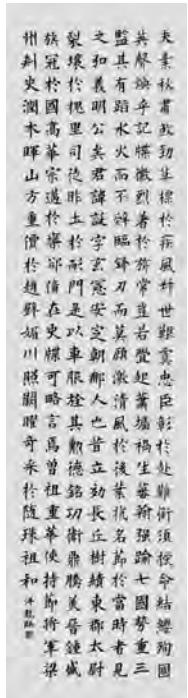
(大雲評)

◆濃墨で、力強いエネルギーが一気に溢れ出た豪快な作品です。落款が少し小さいように感じました。  
(東舟評)

臨書  
(竜泉)  
小林洋龍

「皇甫誕碑」

夫素秋肅鼓勁  
英聲煥乎記牒  
監其有蹈水火  
之私義明公矣



書景会 西巻 サト子

◆ 線に減り張りがあり、余白を  
すっきりと生かした明るい作品  
です。行の中心が少々広いよう  
に見える。　（東舟評）

◆運腕大ききに縦横無尽に書き進められており、線も強く余白に響き全体に明るく豪快な作品に仕上つた。  
(龍雲評)

◆小気味よく流れるリズムで一  
首を表現。中央部の余白も自然  
で、後半の納め方もバランスよ  
くまとまる。  
(大雲評)

◆ 左右に動きが大きくメリハリが利いて美しく快い作品となっている。更に墨量変化の研究を期待する。

◆ 欧法の冴えと切れ味の鋭さを  
よく会得し、丁寧で真面目な臨  
書作。縱に通貫する筆脈や不  
足か。  
(大雲評)

(大雲評)

味をよく精通し、字形をよく整っています。  
(東舟評)

◆真剣に取り組む精神力に、ただただ敬服致します。線の切れ味もよく精通し、字形もよく整っています。  
(東舟評)

現代詩文書  
(白弦)  
佐藤弦佳  
「魁夷の文」



178×60cm

◆腕の上下動が見事で線に多様な変化が表わされている。行間も美しく上品にまとめられている  
快作。

◆潤滑太細の変化が小気味よいリズムを奏でている。軽妙な運筆が紙面に表情を与えるやかな作。  
(大雲評)

(龍雲評)

◆極端に使い分ける墨の潤滑が魅力的です。字形の大小、線の太細による変化が爽やかさを醸している。

西巻サト子書

西卷 サト子書

180×53cm

創作の部	(56点)
漢字	かな
前衛	かな
臨書の部	かな
(31点)	かな
漢字	かな
篆刻	かな
前衛	かな
現代	かな
大雲	かな
千葉	かな
影山	かな
扇葉	かな
大雲	かな
江本	かな
興舟	かな
如月	かな
治田	かな
芳江	かな
奥田	かな
小林	かな
純風	かな
千桜	かな
金子	かな
美千	かな
陽陽	かな
岩崎	かな
陽光	かな
うる	かな
篠原	かな
楊流	かな
「前衛」	かな
杏苑	かな
松永	かな
杏苑	かな
大拙	かな
畠中	かな
成山	かな
和香	かな
大和	かな
愛香	かな
白珠	かな
高原	かな
紗秀	かな
千葉	かな
翠苑	かな
竹浪	かな
叙舟	かな
英峰	かな
佐藤	かな
桂香	かな
大雲	かな
佐藤	かな
希雲	かな
無門	かな
酒井	かな
如雲	かな
吉瀬	かな
八木橋紀舟	かな
竹美	かな
英峰	かな
翠苑	かな
大雲	かな
白珠	かな
「臨書の部」	かな
「漢字」	かな
87点	総出品点数

漢字研究部  
(皇甫誕碑)

選評 川島舟錦

今月のホープ作品



相内沙莉

漢字研究部 特選  
相内 沙莉

粘りのある強い線質で、課題の特徴をとらえ、4文字をまとめてみました。日々、真剣に取り組み、コツコツと練習を積み重ねた結果であることが伺えます。若さあふれる作品、今後が楽しみです。

◎漢字研究部総評

形だけでなく、線質まで見抜く力をつけることの大切さを思いながら審査させていただ

きました。人と人の馬が合えば物事がスムーズに運ぶように、相性のいい半紙と墨、筆選びは大切かと思います。発達段階に応じて、あって、はじめやすく抵抗のある半紙に超濃墨などを使って線を鍛えることは、とてもいいことですが、墨が薄いために線が浅く滲んで作品はもったいない。もう少し工夫していただきたいと思います。



洋梨春正純祥  
子秀煌江平扇

洗翠里雅郁紅  
城扇萌邦子雲

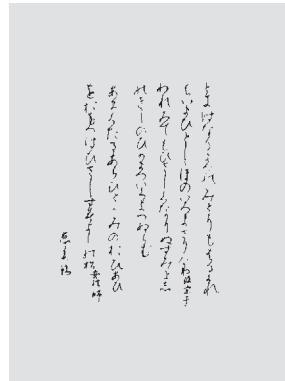
政良麻由雅彩  
子子矢子悠香

真雅美一友香  
弓芳梢琴里

かな研究部  
(粘葉本和漢朗詠集)

美初山勝評選

今月のホープ作品



篠田 恵美子

太細の差が少ない今  
自然な運筆で、すなはち  
した。技量の巧みさを  
◎かな研究部総評  
癖のない基本的な書

**特選 篠田恵美子**  
かな研究部 太細の差が少ない今回の古筆ですが、墨の潤渴や  
自然な運筆で、すなおで上品・美しい作品となりました。  
した。技量の巧みさを感じます。

かな研究部成績表